

## 研究課題：上井久義映像資料の整理公開

昨年度に引き続き、35ミリポジフィルム（スライド）をスキャナーでスキャニングし、デジタル化を進めた。今年度は新たに静岡県、京都府、福井県、和歌山県、四国、九州、大阪府、大阪市、東北など、約4000枚の写真をデジタル化し、前年度のもの合わせて7600枚ほどになった。

ホームページでの公開では、デジタル化した資料の一部を県ごとにまとめて公開を始めた。

宮本常一や三村幸一の写真集が出版され、明石文化博物館では「2023年度 春季特別展 写真家が捉えた 昭和のこども」が催されるなど、昭和時代の写真が資料として注目されている。同時に、新博物館法では資料のデジタル化と公開、さらに地域の活力の向上に取り組むことを努力義務としている。そういう意味では、資料的価値のある写真をデジタル化して、インターネット上で公開するこの作業は文化庁の意図しているものに近いと考えられる。

上井久義の映像資料は大きく分けて以下の四つの資料群に分けられる。

### 1、消滅したもの

○兵庫県多々良木；ダム建設によって水没する前に村の様子や行事などの記録を目的として撮影された。この成果は多々良木地区民俗資料調査団『多々良木』（朝来町教育委員会、1972年）として発表されている。

○山口県廣実申し；すでに廃村となっている。

○二木島祭り；2010年より休止している。

### 2、行事の間隔が広いもの

○山口県浜出祭；7年に一度。次回は2025年。

○山口県廣実申し；二つの村が6年に一度で交互に行う。同じ村では12年に一度となり、さらに村の中で、それぞれの家が輪番で行うので、実際には36年で一度ほど。

○兵庫県播磨の国総社（射楯兵主（いたてひょうず）神社）；一ツ山大祭は60年に一回丁卯の年に行われる。前回は1987年でその前は1927年したがって、カラーの写真記録があるのは上井久義撮

影の1987年のもののみ。次回は2047年の予定。

### 3、変化したもの

○大阪府 杭全神社の御田植祭；元々は平野郷七名家の一つ末吉家がシテと地方を、水利組合員が牛役を務めていたが、現在は保存会が行なっている。上井久義の写真は末吉家がシテを受け持っていた時代のもので、現在では人形や鍬・鋤などはレプリカが使用されている。

○香川県 金毘羅大祭⇒ 祝舎の場所が本来の場所ではなく、駐車場へと移動しているようである。

○兵庫県；養父のおはしりさん、もともと全ての行程を人力で行っていたものが、現在では一部を車に神輿を乗せて移動している。また、ニュース画像で見るとはもともと神輿の前導役として柄口持ちがいたが、いなくなっているようだ。

### 4、その他

○やまどっさんの展示について、上井久義が撮影した当時は震災前であり、現在は淡路島北淡町歴史民俗資料館として健在ではあるが、震災後の展示状況は未確認である。

○北海道アイヌ民俗資料館は、現在、平取町立ニ風谷アイヌ文化博物館となり、展示状態は大幅に変更されている。

以上、上井久義の映像資料を四つに分類し、その公開の意味について考察した。残念ながら、撮影当時のものを現在の姿とで比較検討することはできなかったが、しかし、これらがインターネットで公開され、今では見られない祭礼や風景に誰もが気軽にアクセスすることができるようになることで、民俗学や歴史学の研究だけでなく、それらの地域の活力の向上に寄与できるものだと考えられる。